

# 松波小学校だより

第6号  
令和3年10月4日  
能登町立松波小学校

## 地域へ出かける

10月に入りました。秋という季節は、運動、勉強、遊び、畑作業等何をするにしても気持ちがよく、集中できます。コロナウイルス感染症も少しずつ新規感染者が減っていき、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が10月1日より全面解除となりました。

学校では、児童が地域へ出かけ、体験的な活動をしています。

6年生が、理科の学習で地層を見に恋路、九ノ里へ行ってきました。5年生は稲刈りをしました。4年生は海岸のゴミ拾いに恋路海岸に出かけました。プラスチックゴミの多さに気づき、マイクロプラスチックの問題についても知り、マイクロプラスチックを減らすために自分たちに何かできる事はないかと考えています。3年生は「あくあす能登」へ出かけ海洋深層水についてインタビューをします。

6年生は松波公民館や「ひまわり」さんとタイアップし、地域に伝わる話を紙芝居にする活動を2年前から行っています。今年は「恋路物語」と九ノ里の「薬師像」のお話を紙芝居にし、地域のいろいろな施設においてもらう計画です。そのために、松波公民館長の瀧田さんを始め、ひまわりの皆さんにお話をさせていただいたり、薬師像の貴重な写真を見せてもらったりしました。

恋路物語の伝説を、私も小さい頃聞いたこともあるし、恋路に海水浴に行き、家族と像の前で写真を撮ったことも思い出に残っています。また、薬師寺に保管してある薬師像にまつわる話も、聞けば聞くほど不思議な話です。しかもその薬師像が現存しているので、本当に起こったことなのではないのでしょうか。このような地域に伝わる話を地域の人から聞き、それを紙芝居にすることで、児童も伝える側にもなっていきます。

地域に出かけては、見学したり、インタビューしたり、体験したり、地域の物・人・ことを活かして考えたり探求したりする学習をしながら、地域のよさに気づき、守り、伝えたり、一方では地域の抱える問題にも目を向けていってほしいです。

第2期能登町教育振興計画の基本理念は、『能登』の地と人に学び 未来を拓くたくましい力をはぐくみ“一歩前へ進む人づくり”です。これらの体験を、子どもたちが大人になったとき思い出し、小学生の時に地域に出かけ、こんな体験をした、あんな話を聞いたなどと、ふるさとを誇りに思えるようになってほしいです。

松波小学校 校長 前田 稔子

